

2010年6月19日、第22回日本ジェイムズ・ジョイス協会研究大会が開催されます。会場は第一回から四回までの大会が行われた会議室となりました。懐かしさを覚えるかたも多くいらっしゃるでしょうか。プログラムは別紙の通りです。ご出欠のハガキを同封しましたので、5月中の投函をお願いいたします。今回の Newsletter には、研究発表要旨、シンポジウム(×2)の梗概を掲載しました。

Topics

- ▶ 第22回研究大会
 ～研究発表要旨、シンポジウム梗概～
 ～懇親会のお知らせ～
- ▶ 事務局からのお知らせ ～口座振込について～
- ▶ (別紙) 大会プログラム

第22回研究大会 研究発表要旨、シンポジウム梗概

1. 研究発表(発表順)

(1) 自己との距離—James Joyce and Mr Duffy in “A Painful Case”

小林広直

ジェイムズ・ジョイスは手紙の中で“A Painful Case”を“After the Race”と共に *Dubliners* の中で最も出来の悪い作品のひとつに数えている。その一方で、彼は“A Little Cloud”を極めて高く評価し、「「小さな雲」のどのページも、私のすべての韻文に勝る大きな喜びを与えてくれる」と述べている。しかし、作家自身の評価とは異なり、“A Painful Case”は、Cóilín Owens が一冊の本 (*James Joyce’s Painful Case*, 2008) にまとめるほど、多くの批評家によって論じられている作品である。今日の文学批評においては、作者の意図が絶対的でないとはいえ、ジョイス作品の主要登場人物は多かれ少なかれ作家自身の分身(alter-ego)であるという従来の立場を踏襲し、ジョイスがなぜこのような評価を下したのかについて改めて考察してみたい。

この問いに答えるために、本発表では、「自己との距離」という問題を扱う。ミスター・ダフィは世俗的なダブリン社会を嫌悪し、教会も信条も持たず「自身の身体から少し距離を置いて暮らしている」。言わば彼は、自身を常に客観的に分析し、理知的に行動することで自己を保持している。しかし、彼の閉鎖的なエゴイズムを揺り動かすのが、ミセス・シニーとの出会いと別れ、そしてその悲劇的死である。作

品の最後にダフィは自らの孤独を自覚するというアイロニカルな結末をジョイスは用意している。Jean-Michel Rabate は、「自伝的領域から離れたフィクションにおいて、ジョイスはしばしばエゴイズムに興味深い批判を行っている」と指摘する。しかし、果たしてジョイスは自伝的領域から逃れることはできているのであろうか。むしろ自伝的要素、すなわち「自己との距離」が近すぎるが故に、ジョイスはこの作品を精神分析的に「否認」したかったのではないか、という仮説が浮かび上がる。ダフィを、チャンドラー、スティーヴン、ブルームといった登場人物と比較検討し、ジョイスにおけるエゴイズムを描くことの意義を再検討したい。

(2) ジョイスの亡霊——ヒーニーとウォルコットへの啓示

結城英雄

ジョイスに影響を受け、それぞれ 1990 年代にノーベル文学賞を受賞した詩人がいる。アイルランドのシェイマス・ヒーニーとカリブのデレック・ウォルコットである。いずれもイギリス支配を経験し、カトリックの教えを受け、強奪された者たちの叙事詩を言葉巧みに語っている。そしていずれも「ジョイスの亡霊」を呼び覚まし、文学のあるべき方位について指針を仰いだ。ジョイスの文学に影響を受けた作家は数多いが、ヒーニーとウォルコットの場合、ジョイスと時代状況も類似していると思われる。ヒーニーはアイルランドの紛争を見つづけながら、またウォルコットはクレオール化した社会を受け止め、それぞれ歴史の歪みを問直し、新たな文学的地平を開拓していった。二人はジョイスからどのような啓示を受け取ったのだろうか。そもそもジョイスが答えを与えられるような問いだったのだろうか。

本発表では、二人の詩人とジョイスとの対話を確認しながら、それぞれの時代の位相を明らかにし、ジョイスの啓示の意味を検討したい。そして問題点を絞るため、ヒーニーの *The Spirit Level* (1996) とウォルコットの *Omeros* (1992) を取りあげ、ジョイスの *Ulysses* と比較することにする。前者はアイスキュロスの『アガメムノン』を下敷にして、現代のアイルランド事情を語っている。後者はホメロスの『オデュッセイア』のカリブ版である。いずれもジョイスに倣い、地中海の古代世界を範例としながらも、独自の世界を描き出している。実際、ジョイスの *The Odyssey* についての解釈をおし広げ、再検討を迫る問題も内包していると思われる。たとえば、スティーヴンの説くシェイクスピアをめぐる、「和解」の精神もその問いの一つである。妻ペネロペイアに言いよった求婚者たちの殺戮を謀るオデュッセウスはきわめて狭量な夫であった、そんな結論を下すこともできるかもしれない。

2. シンポジウム ～『ユリシーズ』とステレオタイプ～

司会 夏目 博明

本シンポジウム全体のテーマは、『ユリシーズ』とステレオタイプというものである。ここでは、ステレオタイプ概念を抽象的に練り上げることは目的としていない。ステレオタイプという切り口から『ユリシーズ』を読み込もうとするものであり、目的地はあくまで作品

そのものである。

まず、小川がヘインズに関して、新名がモリーに関して、それぞれステレオタイプの視点から発表する。ついで、河原が「搾取されたアイルランド（人）」というステレオタイプを取りあげる。最後に、夏目がガーティと「市民」を問題とする。

『ユリシーズ』に描かれるイングランド人—ヘインズの場合—

小川 真也

ジョイスは、トリエステの大学で「イギリス文学におけるリアリズムとアイディアリズム」と言う講演を行っている。デフォーを扱った前半では、ヨーロッパで認識されているイギリス人のステレオタイプであるジョン・ブルの中にアイルランド支配を見出すことはできないと言っている。一方で、この講演の中でジョイスは、イギリス支配の象徴がジョン・ブルの代わりにロビンソン・クルーソーの中にあり、彼を植民者の典型と論じている。そして、クルーソーの下僕となるフライデーが被植民者の典型であるとも言っている。この発言から、ジョイス自身がイギリス人はロビンソン・クルーソーで表わされる植民者、アイルランド人はフライデーで表わされる被植民者というステレオタイプを抱いていることがわかる。

本発表ではイングランドからやって来ているヘインズを通して、『ユリシーズ』に描かれるイギリス人と、イギリス人が抱くアイルランド人のステレオタイプについて考察する。最初にヘインズはジョイスが考える典型的なイギリス人として描かれているかを考察する。つまり、ヘインズはロビンソン・クルーソー的な人物であるかを考察する。つづいて、ヘインズが抱くアイルランド人のステレオタイプについて考察する。つまり、ヘインズはアイルランド人に対して野蛮で表わされるようなステレオタイプを持っているのか、あるいは、別のステレオタイプをアイルランド人に抱いているのかを考察する。

モリーの表象とステレオタイプ

新名 桂子

本発表では、「『ユリシーズ』に登場する表象はどのようにステレオタイプとかがわっているか」というシンポジウムのテーマをモリーの表象について検討する。モリーはジブラルタルにてイギリス軍所属のアイルランド人兵士と現地の女性との間に生まれ、その後父親とともに帰国、1904年6月16日現在ダブリンに住む33歳のアイルランド人女性である。彼女は、主人公ブルームの妻であり、ミリーという15才の娘をもつ母親であり、ダブリンで人気のセミプロのソプラノ歌手であり、カトリック教徒であり、さらには母方の血筋からスペイン系でありかつユダヤ系でもあるらしいという多様な側面をもつ。これらの側面はどのように表象されているだろうか。また、モリーの表象は、20世紀初頭の西洋に流通していたステレオタイプとどのような関係にあるだろうか。この分析を通して、表象とステレオタイプに関する『ユリシーズ』の戦略を明らかにしたい。

『ユリシーズ』に描かれるアイルランド（人）は搾取されていたのか？

河原 真也

植民地収奪論、植民地近代化論という二つの立場があるが、19世紀後半に台頭した文化ナショナリズムの担い手は、前者の立場から「英国に搾取されたアイルランド」という構図に基づく主張を展開していった。1980年代以降、Field Day グループの誕生やポストコロニアリズムの隆盛によって、その動きは加速化する。そして *Ulysses* の解釈においても、作品に内在する支配者／被支配者という二項対立構造に基づく「搾取されたアイルランド（人）像」が繰り返し読み解かれてきた。一方で、*Ulysses* の舞台となった1904年前後のアイルランドの状況を振りかえってみると、「貧しい」アイルランドというイメージは、必ずしも当時の社会を正確に反映していたわけではない。豊かな Anglo-Irish に近い Catholic の中産階級も多く存在しており、事実ジョイス作品においてもその姿がいくつも描きだされている。

本発表では、英国による植民地支配という観点から *Ulysses* における「搾取されたアイルランド（人）」というステレオタイプを取り挙げる。具体的には、社会経済史的な側面から当時のアイルランドの状況（GDP 等の経済的指標、Potato Famine に関する近年の研究動向など）を検証したうえで、上述したステレオタイプがジョイスによってどのように提示されているのか、またそのステレオタイプがどう解釈されてきたかを考察してみたい。

ガーティと「市民」

夏目 博明

ガーティと「市民」をステレオタイプの視点から検討する。ご存じのように、ジョイスは第13挿話を書くにあたって Cummins の *The Lamplighter* を下敷きにした。そこに登場するボストンのガーティの目の色は dark である。ところが、『ユリシーズ』に登場するダブリンのガーティは、目の色が blue へと変貌を遂げている。これをひとつの手がかりにして『ユリシーズ』を読んでいく。また、たとえば『風と共に去りぬ』に登場するジェラルド・オハラは stage Irish の典型だと思われる。「市民」はこの系列に属している。これもまた手がかりにする。

3. シンポジウム ～ ジョイスと映画 ～

司会 須川 はずみ
金井 嘉彦
浅井 学

近年ジョイスを映画という視点で読み直すという試みがなされている。その原因の一つは2004年のイギリス人映画研究家であるルーク・マッカーナンの仕事に起因する。ジョイスがダブリンで初めて常設の映画館をつくったというのは周知の事実ではあるが、その後ジョイ

スがあつという間にその事業から手を退いてイタリアのトリエステに戻ってしまったせいで、そのことはジョイス研究家から重く捉えられることがなかった。マッカーナンは映画史研究としてその出来事を捉え、ジョイスがアイルランドにどんな映画を輸入し、現在その映画のうち現存している映画が何本で、それらがどこにあるのかを突き止めた。須川はフィルム・アーカイブセンターにおいて現存するジョイスの上映した映画でロンドンとパリにあるものは観てきたので、ジョイスと初期映画との関係について述べるつもりである。

金井はジョイスをモダニズム作家として考えた場合、ちょうど映画というメディアが登場してくる同時期に生きたジョイスの作品の映画的要素を考察する。今回は昨年（シンポジウム『『肖像』再読』）の続きで、『ユリシーズ』が主眼となる。

浅井はジョイスの作品の中でも特に『ユリシーズ』を基に映画化された作品に注目し、映画と原作が描く映像との差違を分析する。

ということで、今回のシンポジウムでは、三人で力を合わせ、あまり重要視されてこなかった映画的要素を、ジョイスの作品、特に『ユリシーズ』を中心に考えてみようと思う。

懇親会のお知らせ

18:00からは懇親会が予定されています。会場はカフェレストラン「高田牧舎」です（早稲田キャンパス南門を出て正面）。

懇親会費は、ドリンク込みで 6000円とさせて頂きました。事前にお振込みください。多くの方々のご参加をお待ちしております。

事務局からのお知らせ

～口座振込について～

* 日本ジェイムズ・ジョイス協会の会費 5000円（学生会員の場合 3500円）、および懇親会費 6000円は、安全のため、すべて「振込」とさせて頂いております。（会場ではお受けできません。）下記「ゆうちょ銀行」の口座へお振込みください。

* 通信費節約のため、通常領収証は単独ではお送りしていませんが、研究大会当日の受付にてお渡しできるよう用意いたします。（ただし大会直前ですと口座の確認ができませんので、できれば5月中のお振込みをお願いいたします。）また研究大会・御欠席の方には、後日送付する Joycean Japanに同封させて頂きます。

*領収証をお急ぎの場合、その旨、同封の出欠ハガキの備考欄にお書き添えください。事務局にてお振込みの確認が済み次第郵送いたします。

*誠に恐れ入りますが、振込手数料は会員の皆様にご負担頂いております。

*昨年からは、ゆうちょ銀行へは、他銀行からの振込みが可能になりました。ただし郵便局からの振込みとは異なり、新たに設定された店名・預金種目が必要になりますので、お知らせいたします。

- 銀行名： ゆうちょ銀行
- 金融機関コード： 9900
- 店番： 048
- 預金種目： 普通
- 店名： 〇四八 店（ゼロヨンハチ店）
- 口座番号： 0185454

*手数料がかかりますので、「会費」と「懇親会費」は同時のお振込みで構いません。同封の出欠ハガキに振込額選択欄を設けましたので、こちらにも念のためご記入ください。〔なお、学生会員から一般会員になられた方、その他変更等ございましたら、ハガキの備考欄でお知らせください。〕



住所変更をされてこのNewsletter が転送で届いた方、(あるいは届かずにこのウェブサイトで初めてご覧になった会員)は、お手数ですが右記事務局宛にお知らせください。(e-mail可)



日本ジェームズ・ジョイス協会 事務局

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

群馬大学教育学部

吉川信研究室内

メールアドレス: sean_jjsj_since08june (at) ybb.ne.jp

(送信の場合は(at)を@に変更してください)

ゆうちょ銀行 口座番号: 記号 10430 番号 1854541

(名義 日本ジェームズ・ジョイス協会)